

# ジェイド

## 都市型3列

### 上質な大人の6シート

#### 誕生



乗用車のドライビングポジション(写真上)と2列目「Vスライドキャプテンシート」(写真下)を実現した

「Multi Surprising」をグランドコンセプトに、セダンでもミニバンでもない、新しい乗用車を創造すること。それは、クルマが備えている本質的な価値である、Emotional（スタイリングや走り）とFunctional（居住性や使い勝手）を高次元で融合することの徹底追求だったという。かつて、オデッセイの創造によってファミリーカーの常識を変えたり、センタータンクレイアウトの創造でコンパクトカーの使い勝手を飛躍的に向上したり、数々の新しい価値を生み出してきた Honda ならではの発想と技術力。ジェイドは、そんな Honda だからこそ実現できた、ミニバンなみの居住性と使い勝手をセダンなみの低全高で実現し、上質で低燃費な走りを備えたまったく新しい乗用車だ。現代の様々なライフスタイルに応えるとともに、所有する喜びと満足感をしっかり感じさせてくれる 1 台になっている。

クラストップの低燃費

25.0km/ℓ

※ JC08モード燃費 (HYBRID)



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
芝大門センタービル3階  
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

ホンダ

ジェイド

特集号



ホワイトオーキッド・パール



モダンスティール・メタリック



クリスタルブラック・パール



スーパーブルー・メタリック(3コート)\*



マンダリンゴールド・メタリック\*



プレミアムディープロッド・パール\*



プレミアムブルーパール・メタリック

\*HYBRID Xに設定。

## ジェイドの魅力を引き出す 純正アクセサリ

つくり手のこだわりがすべてに貫かれたジェイドに、所有する誇りとユーザーの個性をプラスする。そんな想いで数々のアクセサリを用意しているホンダアクセス。エクステリアでは、スポーティ & エレガンスを叶えるフロントグリル、LED フォグライトや 18 インチアルミホイールなどでトータルコーディネートが可能となる。インテリアでは、センターコンソールイルミネーションをはじめ、光で空間を演出するアイテムがそろう。また、ラゲッジの使い勝手をさらに向上するラゲッジトレイといった収納アイテムも豊富だ。そして無限からは、「ADVANCED & POWERFULL」をコンセプトとして、スポーティかつ先進装備にも対応したパーツが発売された。精悍さと迫力を添えるフロント・サイド・リアアンダースポイラーに加え、Honda SENSING 対応のフロントスポーツグリルやウィングスポイラー、高い排気効率と消音性能を両立したデュアルサイレンサーや、車高がマイナス 20mm となるスポーツサスペンションなど、無限ならではの幅広いラインアップとなっている。



インテリアイルミネーションイメージ

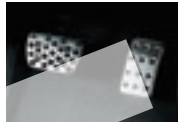
リア席モニター装着イメージ



ラゲッジトレイ



テールゲートスポイラー



スポーツペダル



サスペンション



アクセサリ装着車



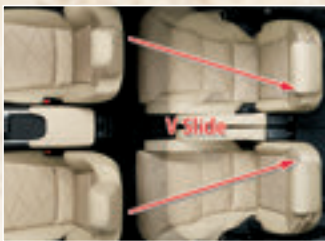
# それは、セダンでもミニバンでもない。これからの時代に、ふさわしいクルマ。

## Functional



### インテリア

自然に感じられるキャビンの上質感と、先進性のある機能性や操作性を追求した、「Natural & Advance」がテーマのインテリア。インパネには軽快な左右対称の広がりを出し、上部に配置したメーターが造る平面から、助手席まで大胆に続く木目加飾パネルが上質な家具のような印象を与えている。コックピットには、Honda インテリアデザインの思想である「瞬間認知」「直感操作」を徹底追求。メーターなどの情報伝達系は上部に、オーディオスイッチなどの操作系はセンターパネルに集中配置し、操作性と先進性を両立している。またキャビンでは、1 列目は大らかな広がりを感じさせる豊かな空間としつつ、スポーティ感とホールド感のあるバケット風シートを採用。2 列目では、固定タイプのアームレストを持つキャブテンシートで、まるでソファのようなくつろぎを実現している。



Vスライドキャブテンシートのイメージ



3列目は荷室空間にも



大人が座れる3列目シート



くつろぎの2列目シート



乗用車感覚のドライビングシート



メーターデザイン



カップホルダー



シフトレバー



USBジャック



ドアライニングデザイン



センターパネル

## Engineer's Voice

(株)本田技術研究所 主任研究員  
ジェイド 開発責任者

印南 泰孝さん



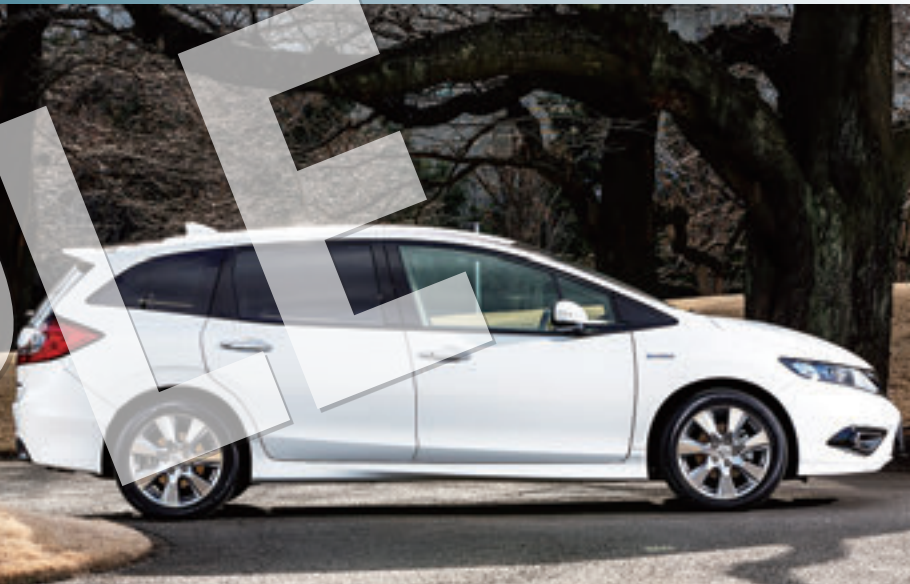
もし、ライフステージやライフスタイルに左右されずに選べるクルマがあったら、より豊かで深みのあるカーライフを楽しめるのではないだろうか。そんな想いから、ジェイドの開発はスタートしました。幅広い世代に受け入れてもらいながら、ひとりひとりの嗜好性にも響くクルマとして、セダンでもミニバンでもない新しい乗用車としてジェイドを創造したつもりです。Honda のクルマづくりの基本思想である、人のためのスペースは最大限に、メカニズムは最小にというパッケージング技術をはじめ、スタイリッシュなフォルムや上質で高いユーティリティを持つインテリア、先進の安全性能などをすべて詰め込んだジェイドを、幅広い方にご支持いただけたら嬉しく思います。



### マルチサプライズパッケージ

全長 4650mm、全幅 1775mm、全高 1530mmと、市街地でも扱いやすいボディサイズに抑えながら、室内には 3 列シートを配置しているジェイド。どの席に座っても快適に過ごせるのは、1 列目・2 列目・3 列目（荷室空間）をそれぞれ独立したゾーンと考え、それぞれの空間に求められる機能や質を実現しているからだ。例えば 1 列目は、「爽快なドライビングゾーン」。走行安定感や路面からの手応えを感じられる、セダン同様のドライビングポジションを追求したほか、視界を遮るものを極力排除することで見晴らしの良さを実現し、車線変更や車庫入れの際にもスムーズなドライビングができるようになっている。そして 2 列目は「くつろぎのリムジンゾーン」。広々とした足元空間を叶えるため、最大限のスライド量が確保できる V スライドキャブテンシートを新開発し、驚くほどのリムジン空間を実現した。また着座姿勢を低くしたことで、ソファでくつろぐ感覚が味わえるシートとなっている。3 列目は「多彩に使えるマルチフレックスゾーン」。ハイブリッドシステムの一部をセンターコンソールに配置し、3 列目シートと荷室のゆとりを十分に確保した。大人でもしっかり座れるほか、5:5 分割で床下格納もでき、目的に応じて自在に空間をアレンジすることができる。

## Emotional



ベルトラインを下げることで、低全高を強調



ワイドで塊感のあるフロント



テールランプとストップランプにLEDを採用

### エクステリア

「Light & Solid」をテーマに、フェザーのように軽快なキャビン、しっかりとした足まわりが支えているようなフォルムを目指したのがジェイドのエクステリアデザイン。軽快・爽快と、力強さ・堅剛さと、それぞれ相反する要素を融合させるために、線や面の使い方、造形やディテールの工夫などで理想的なフォルムを生み出している。具体的には、Honda のデザインアイデンティティである「Exciting H Design」を取り入れて、塊の中にシャープなスリットを入れたようなシンプルかつ精悍なフロントマスク。ヘッドライトのロービームには LED プロジェクターを採用し、上質感をプラスしている。そしてセダンのような低全高を生かし、なめらかなルーフラインと力強いフェンダーラインで印象的なサイドビュー。16 インチと 17 インチで、異なる個性を表現したホイールもポイントだ。

### ホンダセンシング

乗員を守るのももちろん、歩行者の検知を可能とした安全運転支援システム「Honda SENSING」をはじめ、クラスを超えた安全性能が備わるのもジェイドの大きな特徴だ。Honda SENSING は、ミリ波レーダーと単眼カメラで前方車両や障害物、歩行者を検知し、衝突軽減ブレーキや路外逸脱抑制機能、LKAS（車線維持支援システム）、標識認識機能や ACC（アダプティブクルーズ・コントロール）といった先進技術で、より高い安心感をもたらしてくれる。



特性の異なる2種類のセンサーで構成された「Honda SENSING」

### パワーユニットと基本骨格

走る・曲がる・止まるという基本性能から、居住性や静粛性、取り回し視界といったクルマに求められる要素を高次元でバランスさせるため、スムーズな骨格を目指したというジェイド。各部板厚の最適化や結合強度の向上などを行うとともに、大きな開口部を持つボディタイプの特性を考慮し、強度を確保する二重環状骨格を採用するなど様々な技術を取り入れている。またパワーユニットには、1.5L 直噴 DOHC i-VTEC エンジンと高出力モーター内蔵 7 速 DCT（デュアルクラッチ・トランスミッション）に、高性能リチウムイオンバッテリーを内蔵した IPU からなる SPORT HYBRID i-DCD を搭載。モーターのみの EV ドライブモードをはじめ、加速時にはモーターとエンジンの両方を使うハイブリッドドライブモード、高速走行などでのエンジンドライブモードと走行状況に応じた走りができ、25.0km/ℓ（JC08 モード）の低燃費を実現している。



上質な走りと低燃費を実現



17インチアルミホイール



安全装備スイッチ



ダブルウィッシュボーン・リアサスペンション

### LaneWatchと安全装備

運転中のうっかりミスや、死角による見落としなどをなくして「見える安心」を届けてくれる安全装備が、Lane Watch。助手席側ドアミラーに装備したカメラの画像をナビ画面に表示し、車線変更や高速道路の合流、左折時などの死角をサポートする。約 80°まで視野が広がることで、3 車線以上の道路でも他車を認識することができる。また、リアワイドカメラからの映像で、バックで出庫する際に見えにくい側方からの接近車両を検知。バック時の危険を軽減する後退出庫サポートも用意されている。さらに、1 列目シート用の i-サイドエアバッグシステムに加え、1・2 列目からリアクォーターガラスまでをカバーするサイドカーテンエアバッグは全車に標準装備。頭部衝撃保護インテリアとともに、全席の乗員保護性能を追求している。



作動スイッチ



ドアミラー外側のカメラ



広い視角をゆがみなく確認

## 立体駐車場に対応する低全高

